

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902454		
法人名	有限会社 シャイニング		
事業所名	グループホーム「ファミリー」		
所在地	北海道旭川市永山1条11丁目2-38 電話0166-48-8100		
自己評価作成日	平成29年5月15日	評価結果市町村受理日	平成29年7月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902454-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年5月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【力を入れている点】 当施設は、主治医による訪問診療を定期的に行われるようになっております。又、医療機関及び訪問看護ステーションとの連携とご家族様の協力により、ターミナルケアまでの対応を行っています。</p> <p>【アピールしたい点】 季節にあった食材をいかし、家庭的なお食事を提供しています。また、お花見やクリスマス会・節句等その時々にあったレクリエーション行事を開催し、楽しんで頂けるよう取り組んでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>大型スーパーや病院、バス停がある国道40号線沿いの交通の利便性と環境に恵まれた地域にある開設12年目を迎える木造平屋建1ユニット(定員:9名)のグループホームです。 勤務年数の永い職員が多く在籍していて、チームケアに取り組んでいると共に職員個々のニーズを反映した社内研修会を充実させて段階に応じた研修の機会を確保している。また、困難事例への対応を職員間で話し合いながら本人に寄り添った支援に取り組んでいる。 家族等の意見の反映では、お花見やクリスマス会等の行事の様子や事業所の取り組みなどの情報提供や一人ひとりの日常生活の様子、健康状態など伝えて家族等の意向や要望等を話し合う機会を設け、そこでの意向等を運営に反映できるよう取り組んでいる。</p>

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、入居者様一人ひとりに応じた、安心・安全に対応できるよう、職員全員で話し合いを設け、日々取り組んでいる。	事業所独自の理念をつくりあげ、職員会議や日常業務を通じて職員間で話し合う機会を設け、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩などにて、町内会の人々との交流に取り組んでいる。又、町内会での習い事の成果を披露する場を設けている。(ギター等)	開設10年以上が経過しており、地域の人々の認知度は高く、地域の困りごと相談への対応や事業所主催の「夏祭り」の開催などで地元の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の介護、健康相談等気軽に立ち寄って頂けるよう、運営推進会議等での話し合いが持たれている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議にて、ホームの活動内容・利用者の状況報告を行って、参加者の方々より意見を頂き、日々のサービス向上への参考としている。	運営推進会議を定期的で開催して、事業所の活動状況や日常生活の様子等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者及び地域包括センターとの連携を図りながら、会議や研修等にも積極的に参加する様努めている。	市担当者及び包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議などに、勉強会や研修会に参加したり、職員が身体拘束について理解し禁止対象となる具体的な行為・行動・言動のない支援に取り組んでいる。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を職員会議や内部の社内研修会開催で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待関係の研修に参加し、その内容を職員の周知徹底を図っている。又、言葉による虐待にも注意をし、職員の理解と防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の暮らしの中で、必要性があれば家族と相談が出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書や重要事項等の説明は、時間をかけ行っている。又、不安・疑問に対しては、その都度対応し、理解を得るよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	些細な事柄でも、気軽に管理者・職員に言いやすい雰囲気作りをしている。又、家族来訪時や運営推進会議等で意見・苦情等を聞いて、反映出来る様に努めている。	運営推進会議や家族等の来訪時等に意向や要望等を話し合う機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう取り組んでいる。また、第三者機関の連絡先を見易い場所に明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや職員会議の中から意見・提案を聞き、取り組めるものから検討し、運営に反映するように心掛けている。	勤続年数の永い職員が多く在籍しており、就労環境の整備や意見・要望、提案を聞く機会を設けるなどチームケアの実践に取り組んでいる。また、職員から出た意見等は、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況に合わせた勤務形態の配慮したり、待遇改善や能力に応じて、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修等の案内や資料を職員全員が見れるようにし参加を促している。職場内での研修会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	包括主催の研修会に参加し情報交換や交流を行ない、その内容をスタッフへ伝達するようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望の際に、ご本人・ご家族に見学に来ていただき、施設内やサービスについての説明をする中で、希望、要望を聞き、ホームがどのような対応ができるか伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前には、何度か話し合いの場を設け、ご家族様の要望等を理解し対応についての有無をしっかりと伝え、より良い関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様に必要と思われることを提案し、外部機関とも連携を図りながら、対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と寄り添うことで同じ時間を共有し、よりよい信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方には、ご本人の生活や健康状況を手紙や電話等で伝えます。又、出来るだけ来訪して頂くためにも、身の回り品の購入や相談を行い、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等との年賀状のやり取りを支援したり、家族の了解を得てこちらから電話連絡を行い関係保持に努めている。	散歩や外食、馴染みの商店での買い物や知人・友人等の来訪支援で馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の見守りを重視し、トラブルが起きたときには、職員が間に入り良好な関係に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方については、「何かあれば連絡下さい。」と伝え、必要に応じて行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	適時ご本人と面談を持ち、希望や要望・悩み等の把握に努めている。	ホーム内は明るく、職員と談笑する機会が多く見受けられ、本人の意向や要望など職員会議等で話し合い情報を共有して、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び、家族や他サービス提供者より生活歴などの情報収集に努め、職員間で共有し本人がよりよい生活を送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を見守り、アセスメントに細かく記入し、情報を共有するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族から定期的にケアに対する意向を聴く場を設けることで、ご本人がどのように暮らしたいかを探り、介護計画に反映するように努めている。	本人、家族の意向や要望、医師・看護師からの指導や助言、職員会議等で職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、地域に医療機関が多く、訪問診療を利用できる体制が整っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や申し送りにて、情報を共有し変化が生じたときには、速やかに対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、対応出来るように努めている。又、買い物の代行も必要に応じて行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員や町内会長・市役所の職員などと情報交換し、連携に努めている。又、運営推進会議等で入居者様の生活を知って頂く事で安全で豊かな生活を送っていただけるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を結んでおり、主治医による訪問診療を定期的に行うことができる。専門員については、主治医から紹介状を頂きその都度対応している。	往診や通院への支援、日常の健康管理等で適切な医療が受けられるように支援している。また、受診は本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、日々の健康管理を行っている。夜間も看護師と連絡をとれる体制が出来ている。又、医療機関とも相談や協力を得られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関や家族と情報交換を確実にし、退院計画の際は、医療機関のカンファレンスにも参加させて頂き、状態の安定を見ながら支援に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、今後予測される状態をご家族に相談しながら医療機関等と連携し、必要な支援に取り組んでいる。	医療と連携したターミナルケアを実践している。また、重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明してチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの設置、急変時の対応の勉強会も行ない、実践出来るよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時に全ての職員が速やかに対応出来るように避難訓練を年2回実施しています。又、消火設備等も定期的に点検が行われています。	年2回の避難訓練の実施や急変時の対応の研修会を開催している。また、消火設備や火災報知器等の設備の定期点検も実施している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で入居者に対する声掛けや対応について、職員全員で見直しを行っている。又、スタッフ間でも注意しあえるよう努めている。	職員会議や社内研修会等で一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉や対応がないように職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご本人の希望や思いを汲み取るよう会話を多く持ちます。又、自己決定が難しそうな場合は、選択出来るような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	毎日の日課に拘らず、入居者個々のその日の体調や残存能力に配慮し、日々のリズムを尊重するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理髪を利用し、日々の身だしなみは必要に応じて職員が支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事がある際には、おやつ等に工夫しながら提供しています。又、誕生日にはその方とお話しをし好物を提供しています。	食事が楽しみなものになるよう、メニューに季節の旬な食材を採り入れたり、おやつ作りを職員と一緒にいるなどしている。また、時には麺類や天ぷら等の外食に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態により、とろみ剤を使用し誤嚥にも注意を払っています。一日の水分・食事摂取量を記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じて、声掛けや見守り支援、毎食後の口腔ケアの行っています。義歯については、洗浄剤にて毎日洗浄しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行っています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬で調整が必要な利用者は主治医のもとに対応しています。食事に食物繊維の多い食材や、おやつ等に乳製品が含まれたものを取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は決まっていますが、利用者の希望や体調不良時には、臨機応変に対応しています。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて、入浴が楽しめるよう柔軟に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に横になることが多くならないよう、レクリエーション等、声掛けにて頭や身体を動かし、夜間の安眠に繋げるよう心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がいつでも目を通すことが出来る様に服薬説明書をファイルしている。内服薬が変更になった場合にも、職員間で申し送りを徹底し誤薬がないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調や状況に合わせて、嗜好品等の購入、提供を行っている。 また、気分転換や、目標を持ってもらう為にも、外出や外食等も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、日時を検討し、出掛けられるよう支援している。施設職員のみで対応できない場合は、家族や介護タクシー等の外部業者に協力をお願いしている。	散歩や外気浴、野菜の収穫や馴染みの店での買い物、家族と一緒に外出支援やお花見など普段は行けないような場所でも、戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	医療費やパット代等は施設で管理しているが、飲み物代や雑費は本人で管理されている方もおり、所持・使用できるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望や、ご家族からの電話等があった場合は、ゆっくりと会話できる場所を設けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った小物等を共用空間に設置している。共用空間のテレビは、チャンネルや音量を調整し刺激が無い様に配慮している。室温等についてはその場で過ごされている方の状況を聞いたり、状態の確認をこまめに行い、調整を行っている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には季節毎の飾りつけや行事参加の写真の掲示等で生活感や季節感を採り入れ本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。地熱を利用した省エネ暖房設備を導入し、安全に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望に沿わない場所へ無理やり連れて行くような事は行っていません。食堂やホールでの席等も、性格・相性・身体状況を考慮し、本人の意見、了解を得て決めさせていただいています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談したり、本人の意見を伺い、使いやすい様に家具を設置したり、生活用品等を用意している。	居室には、本人と家族と相談しながら、使い慣れた家具や仏壇等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員全体が、入居者一人ひとりの「できること」、「わかること」を把握し、危険の無いよう見守りや支援、環境づくりをするよう、心掛けている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームファミリー

作成日: 平成 29 年 6 月 1 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	34	急変や事故発生時に備えて、マニュアルや研修会を開いているが、不十分な所がある。	実践力をしっかり身に着けたい。	常に、利用者の健康状態を確認し、個々の既往や服薬状況の把握に努める。急変時対応マニュアルの再確認を定期的に行なう。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。